

国立情報学研究所

学術情報リテラシー教育担当者研修

2010年11月17日(水)

効果的なグループ討議法

安 永 悟

心理学研究科・文学部



久留米大學

KURUME UNIVERSITY



見通し：担当内容のめあて

目的 グループ活動の効果的な実践と活用ができる

- 素材
- ❖ 協同学習の理論と技法を理解し実践できる
 - ❖ 受講者の問題意識についての討議を始める

方法 協同学習の理論と技法を援用

グループづくり

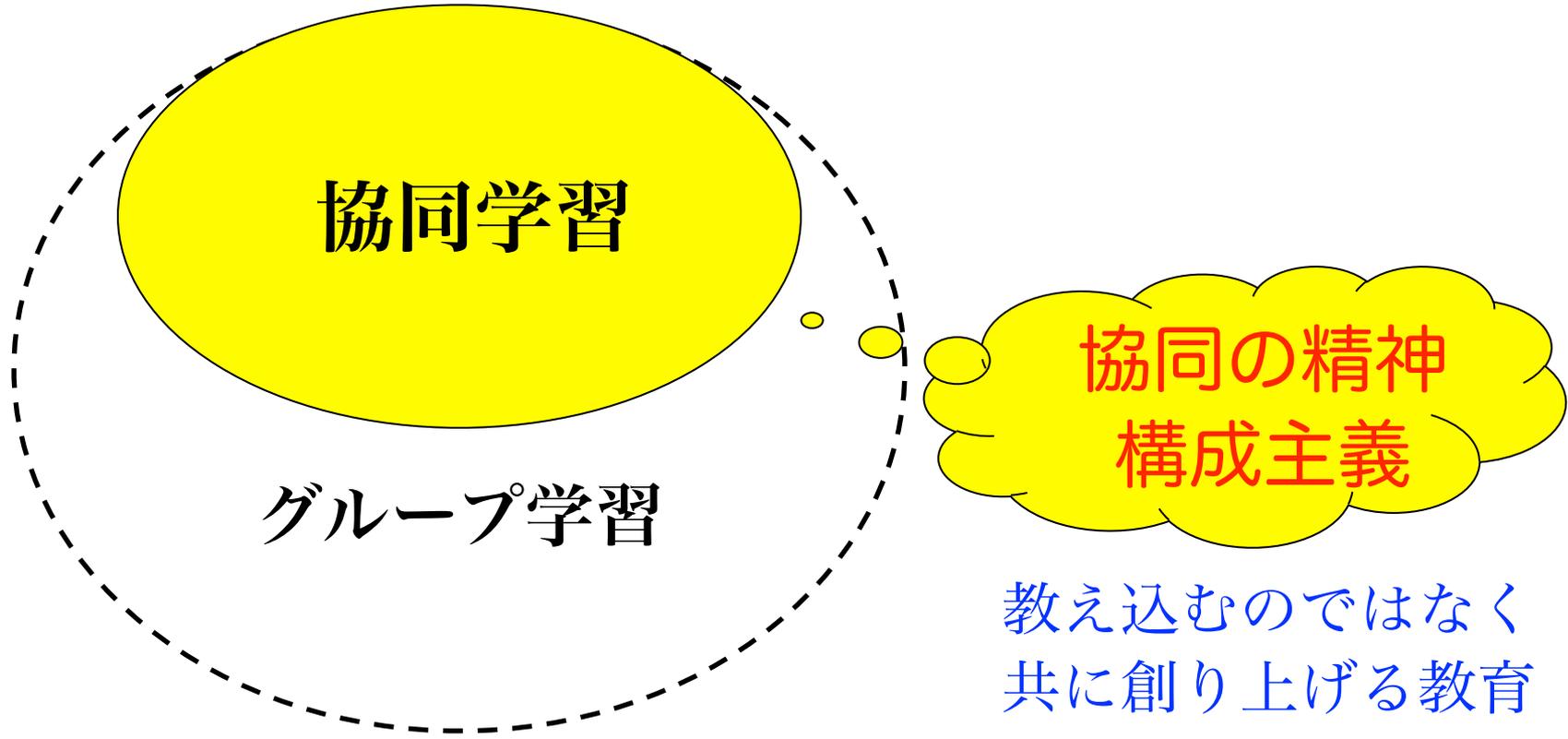
❖ 多様性 の重視

- ❖ 方法：性別、勤務先、業務内容、興味関心・・・
- ❖ 機能：多様な「個」の受容（異質性の許容）
 - 視野の拡大・理解の深化
 - 他者理解

教育場面：「いじめ」阻止

特別支援教育の可能性

理論：協同学習の考え方



協同学習

グループ学習

協同の精神
構成主義

教え込むのではなく
共に創り上げる教育

学習における小グループの活用

理論：協同学習の基本要素

❖ Kaganの定義

- ① 相互依存　　： 肯定的相互依存の成立
- ② 個人の責任　： 個人の責任が明確
- ③ 平等性　　　： 参加の平等が確保
- ④ 同時性　　　： 同時進行の相互交流
（目に見える形の活動）

注意：上記の4要素を満たすときにのみ
協同学習と呼ぶ

方法：研修づくりのポイント

- 見通し：研修の目的（めあて）とそこに至る過程・手順を明示し、共有する
- 価値：研修内容の意味や価値を自己と関連づけて納得させる
- 協力：参加者同士の学び合い・教え合い・励まし合いの場をつくる
- 成就：達成感・効力感をもたせる

「話し合い」の基本原則 1/2

- ❖ 参加者はすべて対等である
- ❖ 他者に対する先入観を捨てる
- ❖ 相手の語る言葉そのものを問題にする
- ❖ 自分の実感や体験に基づいて対話する
- ❖ 他者の質問や疑問を禁じてはならない

出典：中島義道 1997 <対話>のない社会 PHP研究所

「話し合い」の基本原則 2/2

- ❖ 他者との対立やズレを積極的に見つけ展開する
- ❖ 自他の意見が同じか違うかという、二分法を避ける
- ❖ 社会通念や常識にとらわれず常に新しい了解へと向かう
- ❖ 自他の意見が変容する可能性に対して常に開かれている

協同学習の基本技法

❖ 技法「ラウンド=ロビン」 Round Robin

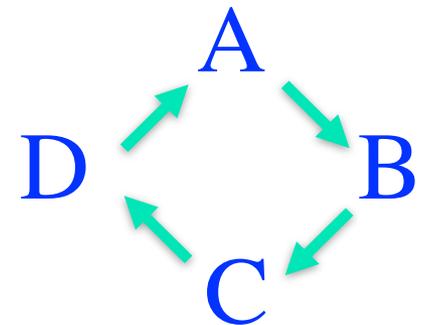
❖ 手順

- ① クラス全体に質問を与える
- ② 一人で考える
- ③ グループ内で順番に考えを述べる
(ほぼ同じ時間を使って)
- ④ クラス全体での話し合う

課題明示

個人思考

集団思考



関連図書 1/2

- 協同学習の技法：大学教育の手引き
バークレイら（著）安永（監訳）
ナカニシヤ出版 2009
- 実践・LTD話し合い学習法
安永（著）ナカニシヤ出版 2006
- 個に応じた学習集団の編成
アイルソン・ハラム著 杉江ら訳
ナカニシヤ出版 2006
- アイディアブック
ジェイコブスら（著） 関田（監訳）
日本協同教育学会（ナカニシヤ出版） 2005

関連図書 2/2

- 大学授業を活性化する方法
杉江ら（著）玉川大学出版部, 2004
- 学生参加型の大学授業：協同学習への実践ガイド
ジョンソンら（著） 関田（監訳）
玉川大学出版部 2001
- 「協同」による総合学習の設計
シャランら（著） 石田ら（訳）北大路書房 2001
- 学習の輪：アメリカの協同学習入門
ジョンソンら（著） 杉江ら（訳）二瓶社 1998

協同教育のすすめ

- 日本協同教育学会 JASCE

- Japan Association for the Study of Cooperation in Education



- 互恵的な信頼関係を基盤とした協同に基づく教育・学習環境を創造・普及することを目的

- 入会申込：学会事務局へ

- ❖ メールアドレス：office@jasce.jp

- ❖ ホームページ：<http://jasce.jp>